

小5国語④

氏名

月 日

/5問

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

(少年が、道をたずねたおばあさんを案内しています。)

「まどろっこしいでしょう。ごめんなさいね。」

「いいえ、大丈夫です。うちのおばあちゃんもゆっくり歩くから、慣れてます。」

「あら、おばあちゃんと一緒に住んでいらっしやるの？ いいわねえ。私は一人でねえ、さびしいものですよ。」

① (こういうとき、なんていってあげればいいのかなあ。)

「いいえ、一緒じゃありません。でも近くにいます。」

「坊やさんは、おいくつですか？」

「十一歳です。十一歳と一カ月。」

「私はねえ、腰の骨のカルシウムが少なくなつて、骨がすりへつてしまう病気なの。老人性の病気で、完全にはよくなるらないんですって。」

「あ、うちのおばあちゃんも同じです。でも、なるべく歩いた方がいいそうです。」

「そうですねえ。」

「ここです。」

と少年は左手の建物の前の、コンクリートのスロープを指さした。

「ありがとうございます。助かりました。」



おばあさんは頭をさげた。

「どういたしまして。」

と少年も頭をさげた。頭をあげると、まだおばあさんはさげているので、少年はもう一度頭をさげた。そして、ちよつと上目づかいをして、おばあさんと一緒に頭をあげた。

② 自転車で乗って走り出そうとして、おばあさんの姿を振り返ると、もう半分ぐらいはスロープを登ったかと思つたのに、まだ地面近くに居るのだ。少年はおばあさんに走り寄つた。そして自分のおばあちゃんが階段を上るときのように、肩を貸して腰を支えてあげた。

スロープの一番上まで登ると、おばあさんはまた頭をさげた。少年も、今度は頭をさげたまましばらくそのままにして、それから頭をあげた。少年はおばあさんの目を見て、びっくりしてしまつた。

③ 涙がにじんでいたのだ。

「まいったなあ。うちのおばあちゃんもそうだけど、すぐ泣くんだよなあ。坊やさん、か。まいったなあ。」

少年はまた自転車で乗り、せまい道を抜け出し、大きな道路に出た。

(千川あがた「十一歳の自転車」による。)

一 線部①「こういうとき、なんていってあげればいいのかなあ。」

とありますが、このときの少年の気持ちとして、最もふさわしいものを、次の1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 自分をこまらせるおばあさんに対して、少しいらだっている。

2 おばあさんの気持ちが分かっていのに、何もできない自分におこっている。

3 おばあさんの気持ちが伝わってきて、悲しくなっている。

4 おばあさんを元気づけてあげたいが、何と言っていいのかわからないのでとまどっている。

4

二 線部②「ちょっと上目づかいをして」とありますが、少年はなぜ上目づかいをしたのですか。次のように説明したとき、

□に入る言葉を、文章中から五字でぬき出して書きましよう。

おばあさんが □ かどうか、確認かくにんしている。

頭をあげた

三 線部③「まいったなあ。」を声に出して読むとき、どのよう

に読むのがよいですか。最も適切てきせつなものを、次の1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 こまった様子をこめて読む。

2 少しうれしさをこめて読む。

3 別れるのがつらそうに読む。

4 晴れやかな気持ちをこめて読む。

1

四 少年がおばあさんのことを心配そうに見まもる様子が書かれた一文はどれですか。文章中からはじめの五字をぬき出して書きましよう。(句読点くとうてんも一字としてふくめます。)

自転車に乗

五 この文章を読んだ中田さんは、「特に心に残ったこと」について考え、次のように発表しました。

【特に心に残ったこと】

おばあさんの目に涙がにじんでたところが心に残りました。



中田さん

あなたは、おばあさんの目に涙がにじんでいたのはなぜだと思いますか。次の〈条件〉にしたがって書きましよう。

〈条件〉

○ 文章中に書かれている、ふだんのおばあさんの生活の様子から取り上げて書くこと。

○ 五十字以上、七十字以内で書くこと。

○ 原稿用紙の使い方にしたがって書くこと。

○ 一部の部分から書き始めること。

例

ら。	た	の	ら	お
	こ	で	し	ば
	と	、	で	あ
	と	少	、	さ
	も	年	さ	び
	う	に	し	しい
	れ	や	い	思
	し	さ	い	い
	か	し	を	を
	っ	く	し	し
	か	し	て	て
	っ	て	い	い
	た	も	ら	ら
	か	ら	っ	っ
	か	ら	っ	っ